

# 関西学院大学 研究成果報告

2023年 4月25日

関西学院 院長殿

所属：社会学部  
職名：教授  
氏名：村田 泰子

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 関西学院留学 長期（滞在国：イギリス） <input type="checkbox"/> 関西学院留学 短期（滞在国：） <input type="checkbox"/> 宣教師研究期間
研究課題	乳幼児のケアにおけるジェンダー化された親業規範の社会学的調査研究 ——言説ならびに実践の多様性に注目して——
研究実施場所	イギリスマンチェスター市
研究期間	2022年 4月 1日 ～2023年 3月31日（12ヶ月）

## ◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

もともと2020年度に一年間の学院留学に行かせていただく予定でしたが、コロナ禍により二度にわたって延期を余儀なくされ、2022年度にようやく留学に行かせていただくことができました。

また、当初の計画ではイギリスブリストル大学で訪問研究員として受け入れてもらいながら、ブリストル市で乳幼児のケアにおけるジェンダー化された親業規範について調査研究を行う予定でしたが、諸事情により予定を変更して、同じくイギリスはマンチェスター大学の「モルガン・センター日常生活研究所（Morgan Centre for Research into Everyday Lives）」において訪問研究員として受け入れていただき、マンチェスター市で調査研究を行いました。

マンチェスター大学では社会学者のヴァネッサ・メイ教授に受け入れ教員となっただき、公私にわたりお世話をさせていただきました。ちなみにマンチェスター大学で訪問研究員をするのは15年ぶり、二度目のことです。

留学先にイギリスマンチェスター市を選んだのには、いくつかの理由があります。一つ目の理由は、イギリスという国が、「愛着理論」や「母性的養育のはく奪理論」で知られるジョン・ボウルビィの生まれた国であり、とりわけミドルクラスにおいては、乳幼児の子育てにおける母親規範がヨーロッパの他の国に比べても、ねづよいからです。

イギリスでは日本同様に、女性が出産を機に働き方や職種を変更することも少なくありません。そうした状況にあって、女性たちが、フォーマル・インフォーマルな支援だけでなく親族などインフォーマルな資源もフルに活用しつつ、学術的にも道徳的にもさまざまな意味付けをされた「乳児の世話」をどのようにして乗り切っているのかについて調査したいと考えました。

第二の理由は、マンチェスターの土地柄に関するものです。この地は産業革命発祥の地で、現在も多くの移民や労働者階級のひとびとが暮らしています。とくに、わたしがアパートを借りて暮らしたオールド・トラフォードという地域は、全英でも指折りの経済的に困窮した地域で、ムスリム系移民が多く暮らしています。そこにおいて、白人ミドルクラスのジェンダー化された親業規範とはまた異なる親業規範ならびに実践を観察することができると思われました。

また、数ある大学のなかでマンチェスター大学社会学部の「モルガン・センター日常生活研究所」を選んだのは、この研究所が、家族社会学者のデイビッド・モルガンの提唱した「家族実践 (family practice)」という概念を大切にしている調査研究を行っているためです。女性の母親業を、いかなる意味においても所与の、固定的なものと考えず、日々の実践のなかで編み出され、交渉されるものと捉える本研究の視点をさらに深めるために、本センターで研究することを選びました。とくにヴァネッサ・メイ教授は、女性の母親業についてのイギリスとフィンランドにおける国際比較研究の業績があり、指導を受けるのに適切と思われました。

具体的に、現地での研究は、先に述べた研究課題「乳幼児のケアにおけるジェンダー化された親業規範の社会学的調査研究——言説ならびに実践の多様性に注目して——」に緩やかに沿いつつ、主に二つのことを行いました。すなわち、乳幼児のケアとジェンダーについての先行研究を整理し、自身の研究の枠組みを構築し、成果をまとめること、そして、マンチェスター市での新たなデータ収集を行い、今後の研究につなげていくことの二つです。

前者の、先行研究の批判的再検討にもとづく自身の研究成果の整理の作業は、成果を2023年3月に単著として出版しました。本のタイトルは、『「母になること」の社会学——子育てのはじまりはフェミニズムの終わりか』（昭和堂、2023年）です。本書の出版に当たっては、2023年度関学研究叢書の助成もいただきました。

本書で主に扱ったのは、日本社会における託児をめぐる女性たちの経験や実践です。乳幼児のケアとジェンダーをめぐる社会構築主義的な議論の限界を指摘したうえで、「母性」という強固な支配構造のもと、多くの女性が好むと好まざるとにかかわらず、つねにすでにジェンダー化された「母」という主体のポジションを受け入れたうえで、なおかつ目の前に生起するさまざまな問題に対し、活用できる資源をフルに用いながら、創造的に対処している様子をフィールドワークをもとに描き出しました。また、記述にあたっては、つねに自分自身の経験に立ち返りながら書く、いわゆる「フェミニズム・オート・エスノグラフィー」の手法を用いて記述することをこころみしました。

後者のフィールドワークについては、マンチェスター市のオールド・トラフォードと呼ばれる地域の、セント・トリーザ小学校の保護者を対象に、乳幼児のケアにおけるフォーマルなケア（保育所など）とインフォーマルなケア（親族、とくに祖母による無償のケア）の活用について聞き取り調査を行いました。調査件数はまだ多くないものの、今後も継続して調査を行い、日本社会における乳幼児のケアをめぐる困難な状況を打破するためのヒントをみつきたいと思えます。なお、マンチェスター市における乳児のケアにかんする調査は、2023年度に新規に研究分担者として参加するマザリングに関する科研費プロジェクト（北村文代表）の一環として、夏に再度現地を訪れ、継続して行う予定です。

また留学中は、マンチェスター大学でヘレン・ホームズ先生の家族社会学の講義を聴講させていただき、家族社会学の新しいトレンドについて学んだほか、授業運営の方法についてもさまざまな示唆を得ました。さらに、社会学部学部長であったヴァネッサ・メイ先生からは、学部運営における多様性にかんする配慮について多くの有用なお話を

聞くことができました。一年間はあっという間でしたが、大変充実した時間を過ごさせていただいたことに、心から感謝しています。

以 上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間は大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。